

船橋地区漁場造成（碎石覆砂）のアサリ資源に対する効果調査結果

船橋市漁協ではアサリ資源の増大を目指し、天然の石を破碎した碎石を漁場の一定範囲に敷設する碎石覆砂に取り組んでいます。これまでの調査で碎石区ではアサリ稚貝の集積効果や餌料環境（付着珪藻）の改善効果が確認されています。

1 碎石覆砂実施状況

平成 29 年度から令和 2 年度にかけて、以下の 4 ヶ所で碎石覆砂を実施しました（図 1、表 1）。

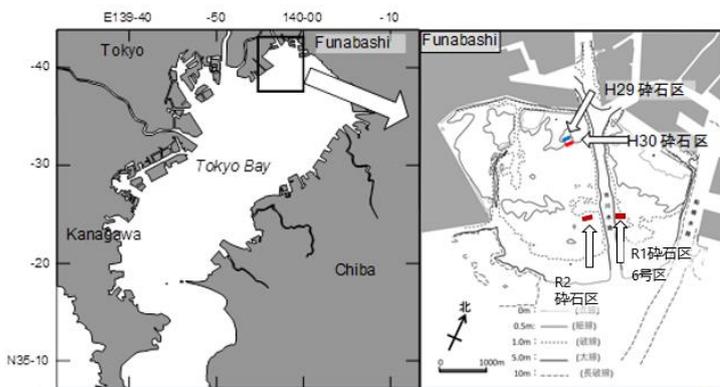


表 1 碎石覆砂実施状況

試験区	設置時期	規模
H29 碎石区	H29 年 6 月	25×60 m
H30 碎石区	H30 年 6 月	25×60 m
R1 碎石区	R1 年 6 月	25×40 m
R2 碎石区	R2 年 7 月	40×50 m

図 1 碎石覆砂実施場所

2 今年度の取り組み

令和 3 年 6～9 月には碎石区で約 330 kg のアサリが漁獲されました。令和 3 年 9 月以降は資源量の減少により操業は休止していますが、碎石区のアサリの最大分布密度は令和 4 年 1～3 月は 460～650 個/m²、令和 5 年 1～3 月にも 150～200 個/m²が維持され、周辺の漁場より高密度での分布が確認されています。

アサリ資源量の減少原因としては青潮の他、波浪や食害等も疑われるため、今年度は新たな碎石覆砂は実施せず、資源量の回復を目指して、碎石区において網を被せてアサリを保護する被覆網も併用し、環境データの蓄積とアサリ資源量のモニタリング調査を継続しています。